

令和4年7月24日

鳥取県トライアスロン協会 御中

鳥取県招待選手
見 山 恭

第40回全日本トライアスロン皆生大会 報告

令和4年7月17日に開催された第40回全日本トライアスロン皆生大会に県招待選手として参加しました。その様子や感想について報告いたします。

1 大会参加への意気込み

第40回の記念大会に招待されとても光栄でした。以前にも増して練習に気合が入り、気合が入りすぎてバイク練習での落車も経験しました。ケガがひどくなくて出場に影響が出なかったのよかったです。また、この練習でライバルとも出会いました。練習はとても大変でしたが、彼のおかげで続けていけたと思っています。この大会は初参加だったので、完走を目標に頑張りました。

2 大会当日 準備

朝3:00に目が覚め、会場に向かいました。会場4:30に着き準備を進めました。周りの参加者がみんな速そうに見えて緊張しました。朝の会場を見回っていたところ、スイム中止の放送がありました。私はスイムが苦手だったのですが、それまでの海練習でスイムが楽しみになっていたのも、中止は正直ショックでした。ただ、海のうねりがひどかったのも、安全のためには正しい判断だったと思います。

3 スタート 1stラン

1stランは、みんなのペースに惑わされないように走ったつもりでしたが、後のバイクにすごく影響が出てしまいました。このあたりは経験と練習をもっと積まないといけないなと感じました。

4 バイク

ランからバイクのトランジションはスムーズに行うことが出来ました。バイクは比較的得意なので息まいてスタートをしました。心拍を見るとスタート直後から160まで上がってしまっていて慌ててペースを落としました。補給も遅れたようで、足も痙攣し始めました。なるべく軽いギアで回すことを心がけたのですが、序盤からこの状況で天候も暑く終盤までとても苦しい状態が続きました。途中でライバルとどんどん差が開いてしまい、すごく焦りました。

5 ラン

バイク後のランは、タイムをあまり気にせず、なるべく3時間半ぐらいでゴールを目指そうと思っていました。しかし、前のランとバイクで足がだいぶ消耗していて、ほとんど歩いてしまいました。ただ、ゴール直前は走り続けることが出来たので、途中歩いていたことは気持ちで負けていたところもあったと思います。もっと強い気持ちを持てるように改善したいと考えています。

6 ゴール

スタートから9時間かけてゴールしました。ロングの大会は初めてで1日中走り回ったことも初めてでした。今大会は、とても勉強になった大会でした。補給やペースなどもっと戦略を立てないとダメだと思いました。ただ、最後はゴールが出来てとても誇らしかったですし、ゴールで家族が待っていてくれたのでとてもうれしかったです。

7 思い出

とても暑くて大変な1日でした。ただ、沿道で応援してくださる方やエイドステーションで水をかけてくれる中学生、ボランティアの方々にはとても励まされました。名簿リストでレースナンバーを調べて名前を叫んでくれる方や、同じチームの方が大きな声で叫んでくれてとてもうれしかった。また、ランで並走している他府県の参加者とお互いに励ましあいながら走ることができ、楽しい！という気持ちでいっぱいでした。

この日は、たくさんのアスリートの方と知り合えていろいろな話ができ、とても充実した1日になりました。また、テレビの中継で安田大サーカスの”団長”にインタビューをされて、その話の中で団長のトライアスロンの経験も聞いたことも記念になりました。

8 関係者の皆様

今大会に参加して、非常に多くの皆様の協力のおかげで大会が運営されていることを知り、とてもありがたく思いました。また、コロナ禍で感染が拡大している中、万全な体制でこの皆生大会を開催していただいた関係者、ボランティアの皆様に感謝を申し上げます。

大会写真

1stRun 元気いっぱいスタート(ライバルと一緒に)



Bike 足の痙攣がきつかった(まだライバルと一緒に)



Run なんとか走っている状態(ライバルははるか先に・・・)



すごく遠かったゴール

皆さんののおかげでゴールすることができました。



また来年リベンジ!